

# 組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：教師教育開発センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> 1. 教員養成教育の実施体制について ・全学の課程認定学部と協働し、平成25年度から教員免許取得に必修化される「教職実践演習」の試行を行い、円滑な実施に向けた体制を整備する。 ・業学部が予定している課程認定申請を支援する。 2. 教育方法・内容について 全学の教員養成の質を保证するために開発・改訂している教職コア・カリキュラムを確実に実施する。教職への動機付けとなる全学教職オリエンテーションの充実、母校訪問の円滑な実施、「教職論」及び「教育実習基礎研究」の一層の充実を図る。また、理数系学部との協働により、魅力的な理科授業ができ、さらに他の教員にもそれを伝えられる理科教員(CST)の養成について取り組みを進める。 3. 学生支援について ・全学教職課程の履修指導及び教員免許取得を推進する。	●総合大学における教員養成の体制を整備し、全学の課程認定学部との協力、教育行政や学校現場と連携した体制は、全国的な教員養成のモデルとして注目され高い評価を得ており、平成24年8月28日中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の説明用資料にも、岡山大学教育学研究科の取り組み例として紹介された。 ●平成25年度から教員免許取得に必修化される「教職実践演習」の試行を、教職課程履修者の協力を得て実施し、全学の教員組織の整備を含めて円滑な実施に向けた体制を整えることができた。 ●全学教職課程履修者(1~4年):約790人(1年:270名、2年:200名、3年:160名、4年:160名)、教員免許取得者458名(教育学部284名、教育学部以外の学部・大学院174名であり、いずれも目標値を上回る教員養成を実施できた。 ●1年次の「教職オリエンテーション」・「母校訪問」から4年次の「教育実習」・「教職実践演習」までのコア科目の整備、教職実践演習の履修カルテとしても活用する「教職実践ポートフォリオ」の作成等、教員養成の質を保证する「教職コア・カリキュラム」の実施体制を整えた。「教職論ハンドブック」の教科書刊行、教職実践ポートフォリオのWeb化、教職実践演習の試行等、教員養成の質を高める諸事業を順調に進めた。 ●CST(コア・サイエンス・ティーチャー:中核的理数系教員)養成拠点構築事業について、課程認定を受けている理工系学部および教育委員会との協働により、第三期生7名を選抜し、CST養成プログラムを計画に基づいて順調に進めている。 ●全学教職課程において、3年次以降に教職をめざしはじめた学生に対する履修指導体制を整えた。3年次編入による者、学士入学による者等を含め、教職に対して意欲のある10名の学生が希望し、面接指導を通して教職課程への履修支援を行った。 ●教職課程(教育学部及び全学)における科目等履修生の教育実習事前事後指導、教育実習及び教職実践演習の履修に対する考え方を整理・体系化した。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1. 全学の課程認定学部と協働して実施する「教職実践演習」の試行を指標とする。目標値は、「平成25年の本格実施に向けた準備が完了」とする。 2. 全学教職課程の履修者数、教員免許取得者数を指標とする。目標値は、教職課程履修者(学部生と大学院生)450名、教員免許取得者420名とする。	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b> 1. 教職コア・カリキュラムの検証とさらなる研究開発の推進 質の高い教員養成教育を目指して、現行の教職コア・カリキュラムの検証と研究開発を推進する。 2. 教育行政及び教育現場との連携に基づいた調査・研究の実施 大学と教育行政及び教育現場との連携に基づいて、教員養成教育の改善を図る調査研究を計画・実施する。 3. 競争的資金獲得による研究の実施 CST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成拠点構築事業、特別経費(教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働」の実現)による事業、特別経費(教員養成教育の質的向上を図る先進的学習環境の構築)による事業により、教員養成教育の改善に関連した研究を推進する。	●全学及び教育学部の教職コア・カリキュラムの修了ごとに学生対象の意識調査と教職実践ポートフォリオによる自己評価を実施する体制を整え、学生の経年的な変化と成長を捉えるルーティンを確立した。得られた成果については、以下のような方法で公表している。 ・本年度刊行した教師教育開発センター紀要第3号に成果を掲載した。 ・平成24年度岡山大学教職教育TA研修会において、全学教職課程の改革をめぐる研究成果に基づき、TAならびにTA指導教員への研修を行った。 ・平成24年度日本教育大学協会研究集会において、本学教職課程の成果と課題をめぐる3本の研究発表と1本のポスターセッションを行い、高い評価を得た。 ・今年度で卒業/修了する全学教職課程履修者(4年生・大学院生)を対象に進路状況と教員採用試験受験動向を調査し、その結果を全学教職課程運営委員会でも報告し課題について協議した。 ●教育学部・教育学研究科・教師教育開発センターと岡山県および岡山市教育委員会の3者による合同連携会議を11月に2回開催した。岡山県教育長、岡山市教育長ら幹部の出席をいただき、教職課程の評価と課題、教員養成及び教員研修に関する事項等、教育の充実・発展に寄与する方策についてまとめた。 ●岡山県および岡山市教育委員会との連携事業として、昨年度に引き続きCST事業、特別経費プロジェクト事業を実施している。また平成24年度から岡山県教育委員会との連携・協働により、「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」事業に取り組んでいる。その他にも岡山県との連携事業は13件、岡山市とは7件であり、目標値を上回る合計23件の連携協力事業を実施している。 ●競争的資金は、CST養成拠点構築事業経費、特別経費(教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働」の実現)、特別経費(教員養成教育の質的向上を図る先進的学習環境の構築)、教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事業の4件について獲得することができ目標値を超えた。 ●昨年度に引き続き「岡山大学教師教育開発センター紀要第3号」を刊行し、主として教師教育(教員養成教育、現職教育)及び教育実践に関する実践的・理論的研究を公開している。本学附属図書館の「学術成果リポジトリ」への登録はもとより、国立国会図書館にもオンラインジャーナルとして登録した。 ●教職実践演習の到達目標を達成するために、中教審答申に準拠して作成したポートフォリオは、岡山大学独自の教育実践力を構成する4つの力とその下位の4項目ごとに、1年次から4年次の教育実習前後の目標到達の確認指標を提示した履修カルテ例として、文部科学省初等中等教育局教職員課から高い評価を得ており、多くの他大学から訪問調査を受けた。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1. 教職コア・カリキュラムについての研究成果を指標とする。目標値は、「成果に基づく改善」と「外部への発信」とする。 2. 教育委員会及び学校との連携を指標とする。目標値は、岡山県・岡山市の教育長を含む幹部会議として連携会議を開催することとする。さらに、岡山県教育委員会および岡山市教育委員会と締結している連携協定に基づく事業展開を指標とする。目標値は、平成23年度までの実績から「20件以上の連携協力事業」とする。 3. 外部資金の獲得を指標とし、目標値は、CST養成拠点構築事業経費、特別経費(教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働」の実現)、特別経費(教員養成教育の質的向上を図る先進的学習環境の構築)の3件について競争的資金を獲得することとする。	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> 1. 学生ボランティアやインターンシップの充実のための連携協力の推進 スクール・ボランティア・ビューローを中心として教育委員会・学校と連携協力し、学校支援ボランティアや学校インターンシップなどの活動を行う。 2. 学校改善に資する調査研究の実施 教師教育開発センター教員と教育行政及び教育現場との連携を促るとともに、学校改善に資する調査研究を計画・実施する。	●岡山県・岡山市教育委員会及び倉敷市教育委員会等と連携し、学生のスクールボランティア活動・インターンシップ事業等の充実に向け、情報提供のWeb化を図るなど、スクールボランティアビューローの機能拡充を行った。平成24年度の研修会参加学生数は340名にのぼった。この事業は学校現場のニーズに応えるとともに、学生にとっては現場での実践力を養う場にもなり、双方にとって有効に機能しており、学校支援ボランティア等に参加する学生数も目標を大きく超えた。 ●センター教員の県教委・市教委等との兼業12件・派遣27件、合計数は39件であり、目標値を大きく超えた連携活動を実施している。 ●CSTプログラムにおいて、岡山県教委・岡山市教委・倉敷市教委と連携し、現職教員11名のCST養成プログラムへの参加者の推薦を受けたり、県下の学校を中心とした20箇所での研修会を実施したりして事業を推進した。 ●教育行政及び教育現場との強い連携については全国的に注目されており、教員研修センター理事長、理事等の訪問調査を受けた。 また、教員養成カリキュラムやセンターが取り組む事業について、大阪教育大学、東京学芸大学、福岡教育大学、帝京大学、福島大学、佐賀大学、岐阜大学等、多数の大学から訪問調査を受けた。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1. 学校教育に関与する学生数を指標とする。目標値は、学校支援ボランティア等に参加する学生数を100名以上とする。 2. 教育委員会及び学校を主とした地域社会との連携を指標とする。目標値は、センター教員の県教委・市教委等との兼業・派遣件数を20件以上とする。	
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
<b>④-1 目標</b> 1. 教職相談室による教職支援事業の実施 学校教育の直面している教育課題と現状について理解を深める研修会等を実施する。また、教員採用試験情報の提供、論文作の添削、模擬面接・模擬授業指導などの教職支援活動を行う。 2. 教職コア・カリキュラムの確実な実施 全学教職課程運営委員会等により教職課程認定学部と連携し、質の高い教員養成教育を目指して教職コア・カリキュラムを着実に実施する。 3. CST養成拠点構築事業の実施 CST養成のための特別プログラムを計画・実施する。 4. 広報活動の実施 高校生を対象としたプロモーションビデオ(PV)等を作成し、質の高い受験生獲得と岡山大学教師教育開発センターの広報を目的とした活動を推進する。	●教職支援部門が運営する教職相談室での相談者数は、延べ4189名であり、目標値を超えた。 ●教職相談室による教員採用に向けた指導や、最新の教育課題について学ぶ「教師力養成講座」を5回実施した。「教師力養成講座」の受講者は、118名であった。 ●教職コアカリキュラムによる教職課程に関する授業について、教育実習基礎研究を含めて高い評価を得ており、アンケート調査からも、教職を目指す気持ちを強いたり、教科の専門性を身につけることができたとする回答が多かった。 ●中国地区で唯一の採択となっているCST(コア・サイエンス・ティーチャー:中核的理数系教員)養成拠点構築事業について、課程認定を受けている全学の理工系学部および教育委員会との協働により、学生CST及び現職CST養成プログラム第三期生の選抜を行い、CST養成プログラムを順調に進めている。年度末には、CST評価委員会を開催し、岡山大学および理工系学部長(課程認定学部)、岡山県教育長をはじめとする教育委員会関係者による評価・助言を受けた。 ●教職課程履修者、学内課程認定学部の協力を得て高校生対象のプロモーションビデオ(PV)を作成した。PVは、センターホームページへの掲載するとともに、教職課程履修者の出身高校、岡山県内の高校にDVDとして配布手続きを進めている。 ●学生が本学教職課程の理念や教師教育開発センターの役割を理解し、4年間の見通しを持つことを促すために「教職課程履修ハンドブック First Edition」を刊行している。また、教職課程履修者や教員免許取得希望者が、教職課程全体のイメージを把握することを容易にする「教職課程カリキュラムマップ」を作成した。
<b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1. 教員養成講座や教職相談等の教職支援を受ける学生数。目標値は、相談者数を延べ4000名とする。 2. 教職コア・カリキュラムについての学生による授業評価。目標値は、「おおむね満足以上」とする。 3. 高校生対象のPVを作成し、岡山県を中心とする80校程度に配布することを目標値とする。	
<b>【総括記述欄】</b>	
本年度は教員研修センターの委託事業である「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事業」により、教育行政との協働体制を構築した。今後ともに、総合大学における特色ある教員養成の質を保証し高めるため、教育行政・学校現場と連携した全学的取組体制をより整備するとともに、全学教職コア・カリキュラムを常に改善して運用を進めている。これらの取り組みは、理数系教員養成拠点事業ならびに平成23年度特別経費等の採択を受けて先進的取組として発展している。次年度以降も、各事業の具体化と改善を一層推進する。	